

株式会社 ファミリーマート 御中

タイ王国  
子どもの溺死事故予防のための参加型教育教材開発事業

第2四半期報告書(2016年12月～2017年2月)



2017年4月  
公益社団法人 セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン



## 1. 事業概要

事業名	子どもの溺死予防のための参加型教育教材開発事業
対象国・地域	タイ王国 バンコク都
事業期間	2016年9月1日～2017年8月31日
報告期間	2016年12月1日～2017年2月28日
予算	11,697,084円
受益者	直接裨益者： バンコクの小学校 2校に在学する生徒 2,220人、教職員 122人 <sup>1</sup> 間接裨益者： 約 7,800人(タイ南部パンガー県で実施されている溺死予防事故事業の対象生徒・教員等)
事業目的	子どもの溺死事故予防のために、子どもの声を活かした溺死防止教材を開発し、当教材の普及拡大を目指す

## 2. 活動進捗

当四半期は事業対象小学校 2校との協議と活動計画の調整を行った後、子どもたちおよび教職員を対象とする活動が始動しました。2017年1月には両校より水泳指導の担当教員 5人が、「水難に備えた泳法」に関するワークショップに参加しました。2月には事業開始ワークショップと、子どもたちの水難事故や対処に関連する知識や技能を測定するテストを実施しました。

### 活動 1. 子どもの溺死事故のリスクと事故予防対策に向けたニーズを特定するためのワークショップの開催

#### 1-1. 対象校教員の「水難に備えた泳法」ワークショップ参加への支援

対象校 2校より水泳指導担当教員 5人が、「水難に備えた泳法」に関する教員向けのワークショップに参加しました<sup>2</sup>。このワークショップは、2017年1月20日から22日までの3日間、連携団体のタイ・ライフセービング協会<sup>3</sup>と子どもの安全推進・傷害予防研究センター(Child Safety and Injury Prevention Research Center/CSIP)<sup>4</sup>が開催したものです。参加者たちは、子どもの水の事故の特徴について学び、泳法やその他の指導内容を検討し、演習を行いました。

<sup>1</sup> Phayathai 小学校在籍者(生徒 1,638人、教職員 122人)および Suan Bua 小学校在籍者(582人、教職員 54人)

<sup>2</sup> これらの教員のワークショップ参加費用には、本事業資金と子どもの安全推進・傷害予防研究センターの事業費が使われました。子どもの安全推進・傷害予防研究センターについては、下の脚注 4 をご参照ください。

<sup>3</sup> 国際スポーツ連盟機構、国際オリンピック委員会、国際ワールドゲームズ協会、国際スポーツ科学体育会議等に加盟している国際ライフセービング連盟のタイにおける代表組織。救命活動の実施・推進や水の安全に関する教育活動を含むライフセービングに寄与する活動を実施しています。

<sup>4</sup> マヒドン大学ラマティボディ病院医学部小児科学科に置かれた研究センター。同センターは、これまで教材開発をはじめとする、子どもの溺死事故予防活動と研究に取り組んできました。

## 1-2. 事業開始ワークショップの実施

2月18日に連携団体と協力し、対象校の Suan Bua 小学校と Phayathai 小学校の生徒<sup>5</sup>、教職員および保護者を対象とする事業開始ワークショップを開催しました。このワークショップでは、事業の目的・活動の説明と併せて、溺死事故予防に関する子どもたちの理解を深めるための導入的活動も行いました。この活動には、水難事故や溺死予防に関連する要素を盛り込んだゲームや遊びを取り入れ、参加した子どもたちの知識・理解度や反応について観察と考察を行いました。

## 活動 2. 溺死事故予防のための子ども学習会の開催

### 2-1. 事業開始時点における、子どもたちの知識や技能の測定(事前テスト)

水難に備えた泳法訓練コースと溺死事故防止に向けた教材の開発に先がけて、事業開始時点における子どもたちの水難事故や対処に関する知識や技能レベルを測定するテストを実施しました。このテストは、対象校2校の計51人の小学4年生から6年生を対象に、(1)事故のリスク要因(環境面および行動面)に関する知識、(2)救助の求め方と救助活動に関する知識、(3)泳力(3分以上水に浮く・休まずに15メートル以上水中を移動する)、(4)救命ジャケットの使用法に関する知識、(5)心肺蘇生法(CPR)の実施や大人に実施を依頼する方法(救急通報電話番号1669の利用を含む)に関する知識の5項目について、測定しました。その結果、子どもたちには特に「救助の求め方と救助活動」知識が不足していることなどがわかりました。

## 活動 3. 子どもの溺死事故予防への啓発教材の製作と普及

### 3-1. 国際交流基金「HANDs! プロジェクト」との連携

本事業では、国際交流基金アジアセンターによる防災・被災地支援リーダー育成事業「HANDs! プロジェクト」のフェロー(奨学生)を迎え入れました<sup>6</sup>。このフェローは子どもたちが水難事故の予防について楽しみながら学べるよう事業チームや連携団体と協力しながら、主にボードゲーム<sup>7</sup>の開発支援を担当します。

### 3-2. 公共放送局との連携

セーブ・ザ・チルドレンは、これまで防災事業や交通安全事業で協働してきたタイの公共テレビ放送局 ThaiPBS<sup>8</sup>と、溺死事故予防をテーマに子ども向け教育アニメ番組「Little Alert Tan」制作に向けて協力する予定です。現段階では、2017年7月から8月にかけて放映される8話分の番組制作を念頭に置き、検討と調整を進めています。

<sup>5</sup> 両校より希望者を募り、選ばれた小学4年生から6年生までの生徒39人が参加しました。

<sup>6</sup> アジア8か国から選出された防災への志の高い若者が、スタディツアーで共に学び、意見を交換しながら各々の企画書(アクション・プラン)を作成し、実現するまでを支援する、国際交流基金によるリーダー育成事業。詳細は同事業のホームページ(<http://handsproject.asia/>)をご参照ください。

<sup>7</sup> ボードゲームとは、チェス、オセロ、モノポリーやすごろくのように、盤上で駒を動かして遊ぶゲームを指します。

<sup>8</sup> ThaiPBSは2008年1月にタイ政府が設立した、同国初の公共放送局です。

### 3. 課題・変更点

#### 3.1. 事業活動スケジュールの見直し

対象校 2 校のスケジュールが合わず、また、本四半期が学年末試験の実施や全国統一学力試験 (0-NET) 対策の期間と重なり、子どもたちや学校関係者が多忙となったことから、「溺死事故予防にかかるニーズ特定のための子どもワークショップ」は、第 3 四半期に開催されることになりました。

#### 3.2. 課題

公立の Phayathai 小学校は、生徒数 1,638 人の大規模校であるため、プールを授業時間中に利用できる人数に限りがあり、体育授業での水泳指導も低学年の生徒のみに行われています。そのため、同校では本事業の高学年の生徒を対象とする泳法訓練の実施に向けてのスケジュールの調整が課題となっています。

### 4. 今後の活動予定 (★はファミリーマート社員様の参加が可能な活動です。)

活動 / 年月	2017					
	3月	4月	5月	6月	7月	8月
バンコクと教材普及予定地域(パンガー県)におけるベスライン調査						
<b>1. ワークショップを実施し、子どもたちを取り巻く溺死予防事故のリスクと溺死事故予防対策に向けたニーズを特定する。</b>						
1.1 対象校の選定						
1.2 溺死事故予防にかかるニーズ特定のための子どもワークショップの開催	★ ✓					
1.3 水難に備えた泳法に関する教員向けのワークショップ						
<b>活動 2：特定されたリスクとニーズに焦点を当て、溺死事故予防のための学習会を開催し、「子どもの溺死事故予防のためのキーメッセージ」を考案する。</b>						
2.1 学習会に向けた協議	✓	✓	✓	✓	✓	✓
2.2 溺死事故予防のための子ども学習会や水難に備えた泳法訓練の実施		✓	✓			
2.3 教員が教員向けワークショップで獲得した知見を対象校で実践に移す		✓	✓	✓	✓	✓
<b>活動 3：考案された「子どもの溺死事故予防のためのキーメッセージ」を基に、子どもの溺死事故予防のための子ども向け啓発教材を製作し、普及活動を開始する。</b>						
3.1 「子どもの溺死事故予防のためのキーメッセージ」の考案			★ ✓			
3.2 子どもの溺死事故予防のための啓発教材の開発	✓	✓	✓	✓	★ ✓	
3.3 上記教材の普及活動の開始					✓	✓

## 5. 活動写真



子どもたちを対象とする、水難に備えた泳法訓練に向けた事前テストの様子。技術指導とテストの実施は、連携団体の子どもの安全推進・傷害予防研究センター（CSIP）が担いました。左：3分間浮いていられるかを試す泳力テスト（Phayatai 小学校、2017年2月17日撮影） / 右：ライフジャケット着用に関する知見のテスト（Suan Bua 小学校、2017年2月22日撮影）



対象小学校2校の生徒、教職員と保護者が参加した事業開始ワークショップの様子。事業について説明するだけでなく、参加者の溺死予防に関連する知識の向上や子どもたちのアイデアを取り入れるための活動も組み込みました。左：連携団体の子どもの安全推進・傷害予防研究センター（CSIP）の専門家が子どもの水の事故の予防について、生徒たちに説明しているところ / 右：水の事故の予防をテーマとするボードゲームの考案に向けて、アイデアを出し合う子どもたち（Suan Bua 小学校、2017年2月18日撮影）





事業開始ワークショップでは、子どもの安全推進・傷害予防研究センター (CSIP) の専門家が教職員に対して、タイにおける子どもの水の事故の背景や要因が説明し、また、事故の予防に向けて教員や保護者が行うことができる取り組みについて紹介しました。(Suan Bua 小学校、2017年2月18日撮影)



事業開始ワークショップに参加している教職員と保護者が、子どもたちが別室で遊んでいるものと同じボードゲームを体験。参加型グループ学習支援等のソーシャル・ビジネスを展開するブラック・ボックス社 (BlackBox) のスタッフが、司会役となっています。(Suan Bua 小学校、2017年2月18日撮影)